

Osaka University Graduate School of Medicine, Laboratory of Preventive Diagnostics

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座

予防診断学研究室の あゆみ

研究室開設15周年記念誌



平成24年（2012年）7月7日（土）発行

目 次

記念パーティ 式次第	2
あいさつ	3
保健学科および予防診断学研究室のあゆみ	4
予防診断学研究室 略譜	7
これまでの構成員	8
受賞歴	10
英文原著論文・総説一覧	11
国際学会発表一覧	19
国内学会発表一覧	21
研究費	32
社会貢献歴	33
現在の研究室設備一覧	34

研究室基本情報

研究室所在地

565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

D413（教授室）D412（研究室（居室））D416（研究室（実験室））

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座予防診断学研究室

06-6879-2592（教授室） 06-6879-2596（研究室）

iwatani@sahs.med.osaka-u.ac.jp（岩谷）

nabe@sahs.med.osaka-u.ac.jp（渡邊）

<http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/~prevdiag/>

兼務機関

大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

双生児研究基盤構築部門／双生児研究部門ゲノム医療研究ユニット

<http://www.twin.med.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座
予防診断学研究室開設 15 周年記念パーティ

式 次 第

司 会：渡邊幹夫
余興進行：修士 1 年生

開会の辞 司 会

あいさつ 岩谷良則

祝 辞 山西八郎（博士後期課程修了（2 期生））
香川朋也（修士前期課程修了（2 期生））
雑賀祥美（学部卒業（4 期生））

乾 杯 長濱大輔（博士後期課程修了（3 期生））

歡 談

余 興 修士 1 年生企画

写真撮影

閉会の辞 司 会

平成 24 年 7 月 7 日（土）17 時
リーガロイヤルホテル 楓の間

（氏名敬称略）

あいさつ

平成 6 年 4 月 1 日に保健学科に赴任して 18 年、そして平成 9 年 4 月 1 日に保健学科の学舎が新築され予防診断学研究室ができて 15 年経ちました。15 年、18 年と言えば、結構長い年月ですが、あっという間に過ぎ去ったように思います。

この間、臨床検査技師に関わるあらゆる分野に関与し、悪戦苦闘してきました。

学部教育では、生命工学と臨床医学と情報科学の教育に力を入れ、今後要望される知識を先取りして教育しました。そして、日本臨床検査学教育協議会では、全国の臨床検査技師教育施設の質の向上を図り、できるだけ早くすべて大学に移行できるように努めてきました。また、卒後教育では、数多くの認定技師試験を実施している日本臨床検査同学院において、医療職で初めて実技の国家試験相当の試験を行い臨床検査技師の質および地位の向上に繋げたいと準備を進めています。さらに、臨床検査の学会では、日本臨床化学会や日本臨床検査医学会など数多くの学会が存在しますが、現在、医師や薬剤師が担っている中心的な役割を、将来は臨床検査技師およびその教育施設が担えるようにする仕組み作りにも努めています。

また文部科学省の大学設置審議会では質の高い臨床検査技師養成施設ができるよう、経済産業省の事業等では真のチーム医療を行うことができる力のある医療職の育成、そして日本学術振興会では、臨床検査技師およびその教育施設の教員が正当に評価され、科学研究費補助金を順当に獲得できるように尽力してきました。

予防診断学研究室では、大変優秀な同僚と学生に恵まれ、未来医療である予防医療を実現させるべく、発症・増悪・予後等を予知できる検査診断法の開発をめざしてきました。一定の方向付けはありますが、渡邊幹夫先生の指導の下、学生の前向きな努力により、次々と新たな成果が実り、予知診断法の開発は着実に進んでいます。そして、多くの卒業生が社会で活躍しているのを見聞きするたびに、大変嬉しくまた頼もしく感じています。また、社会人特別選抜で入学してきた大学院生は、とても短い期間であるにもかかわらず、大変ハードルの高い筆頭著者の国際学術論文をきっちり仕上げられていくのには驚かされました。そして、博士号を取得されることによって大学の教授になられた方もおられ、非常に良かったと大変喜んでいます。

これからも、一人でも多く優秀な学生を世に輩出することによって、臨床検査技師および卒業生の社会的評価が高まり、病院の臨床検査部が高度な頭脳集団であると認識されるような日が一日でも早く到来することを夢見ています。そして、次の 20 周年に向けて、夢が叶えられるよう皆と共に頑張っていきたいと思います。

平成 24 年 7 月 7 日

大阪大学大学院医学系研究科医療技術科学分野
保健学専攻生体情報科学講座予防診断学研究室
岩谷良則

保健学科および予防診断学研究室のあゆみ

岩 谷 良 則

1. 日本の医療の新しい担い手

大阪大学医学部保健学科は、医療技術短期大学部を改組して設置されました、日本で最初の医短から改組した医師・薬剤師以外の医療職の養成大学です。平成5年10月に設置され、平成6年4月に1期生が入学し、この春には19期生を迎えました。そして、今までの学部・編入・大学院生すべてをあわせると総勢4千人を超え、その活躍は日本の医学・医療を変革する大きな力になろうとしています。

2. 保健学科検査技術科学専攻への赴任

私は、平成6年4月の開校時に保健学科検査技術科学専攻病態生体情報学講座に赴任しました。それまでは、臨床検査の教育と研究を行う講座として国立大学に日本で最初に設置された大阪大学医学部臨床検査診断学講座で助教授として、また阪大病院臨床検査部の副部長として、医学科の学生教育と臨床検査部の運営に携わっていました。平成5年9月に阪大病院が中之島から吹田キャンパスに新築移転し、やっと膨大な移転作業が終わったと思った矢先、今度は臨床検査技師の新しい大学教育のカリキュラムの立ち上げと新しい学舎の建設に取り掛かることになりました。

3. 新しい教育科目

大阪大学医学部保健学科検査技術科学専攻が開校時に掲げた重点科目は、「生命工学」と「臨床医学」でした。これからの医療では遺伝子検査だけではなく、遺伝子治療や再生医療等の新たな医療技術の開発も重要になり、それらを臨床検査技師が担うことになると考えて、生命工学等の科目を強化しました。また臨床検査技師は、単に検査データを出すだけではなく、検査診断をサポートする力を持つことが大切になると考え、臨床医学教育を強化しました。その目玉が4年次に行う「臨床医学特別実習」ですが、そのカリキュラムは阪大病院全部門の積極的な協力により作成することができました。さらに、これからの臨床検査技師教育にはITと統計学が重要になると考え、共通教育の情報活用基礎だけではなく、新たに「情報科学」科目を2つ（「実践情報活用論」と「検査情報解析学」）を開講しました。

4. 新しい学舎

保健学科の前身である医療技術短期大学部が昭和42年に豊中キャンパスに開設された時は、数年後には学部昇格させて吹田キャンパスに新しい学舎を建設することが計画されていました。そのため医短の学舎はプレハブハウスで建てられました。しかし、医療科学部という名の独立学部にならなかったため文部省の許可が得られず、大幅に大学教育への移

行が遅れてしまいました。しかし、そのおかげで医学部保健学科への改組が認められた時には学舎の新築が認められました。しかも幸いなことに、1 期棟（中央棟・看護棟）の建物ができる平成 8 年度の建物から文部科学省の建築基準が変わり、おかげで広々とした共通スペースを持つ曲線美の美しい学舎を建ててもらうことができました。そして検査技術科学専攻では、教育と研究を充実させるため、実習室を大きく 3 つに集約して広い部屋にし、共通実験室を作って共通機器を整備するという構想をまとめ、新しい教育研究体制を整えました。

5. 予防診断学研究室の誕生

予防診断学研究室ができたのは、保健学科の 2 期棟（放射・検査棟）ができた 15 年前の平成 9 年 4 月 1 日です。そして同時に、医学科の博士課程（臨床検査診断学）を修了して博士号を取得した渡邊幹夫先生が助教として赴任し、保健学科 1 期生の特別研究生 5 名が配属されてきました。研究室の名称は、2 つの理由で決めました。1 つは、究極の医療である予防医療にとって、予防法と同様またはそれ以上に大切なことは、確実に疾病の発症・増悪を予知することであり、これには臨床検査が不可欠であるためです。そしてもう 1 つの理由は、診断と治療は医療行為として医師にのみ認められていますが、予知と予防は臨床検査技師にも可能であり、中心的役割を担える可能性が極めて大きいと感じたからです。

6. 予防診断学研究室の歩み

予防診断学研究室を平成 9 年 4 月に開設して学部 4 年の特別研究生を受け入れ、平成 10 年 4 月には博士前期課程の大学院生、平成 12 年 4 月には博士後期課程の大学院生の受け入れを開始しました。そして、現在までに、延べ人数として、特別研究生 81 名、研究生 3 名、大学院生（博士前期課程）46 名、（博士後期課程）26 名（うち社会人特別選抜 22 名）、計 118 名を受け入れました。また、大学院博士後期課程修了者を出した平成 15 年 4 月には、大阪大学の大学院講座化に伴い、教員の所属と共に、研究室の所属も、大阪大学医学部保健学科検査技術科学専攻病態生体情報学講座から大阪大学大学院医学系研究科医療技術科学分野生体情報科学講座へ移行しました。さらに大学自体も、平成 16 年 4 月に国立大学から国立大学法人に独立行政法人化されました。

7. 研究課題と成果

予防診断学研究室開設時に、研究課題として、甲状腺機能低下症を発症するか否かを予知する橋本病の発症予知診断法の開発と、抗甲状腺剤治療によって寛解導入が可能か否かを予知するバセドウ病の予後予知診断法の開発を掲げました。最初は、血清や細胞を対象に研究を行っていましたが、平成 11 年度に、確かな予知診断を可能にするためゲノムを対象にした研究に大きく方向転換を図ることにしました。現在は、予防医療のための Genome-Based Diagnostics (GBD) を旗印に研究を進め、(1) Th1 系の増強に繋がる免疫制御因子の遺伝子多型が存在するときには橋本病が増悪して甲状腺機能低下症が発症しやすい

いこと、(2) Th17 系の増強に繋がる免疫制御因子の遺伝子多型が存在するときにはバセドウ病が難治性で抗甲状腺剤治療による寛解導入が困難なこと、などが大きな成果として得られています。また、以前から提唱している(3) 自己免疫の標的細胞が自己免疫応答を抑制するという仮説と(4) 標的細胞の発生・分化における異常が自己免疫疾患の病因であるという仮説を支持する結果も得られつつあります。

8. ツインが拓く未来医療

平成 21 年に医学系研究科附属ツインリサーチセンターが設置されました。そして早川センター長に依頼されて作成したツインリサーチの概算要求が採択されたことにより、平成 23 年度より本格的なツインリサーチがスタートしました。疾病等の有無が異なる一卵性双生児のゲノムを含むバイオリソースと情報をできる限り多く集積し解析することにより、疾病等に関与する環境因子とその環境因子がゲノムに及ぼす影響(ゲノム修飾と部位)を特定することが可能になります。ヒトに関わる全ての表現型(疾病、能力、行動等)はすべて遺伝因子と環境因子によって規定されていますが、遺伝因子はあと 10 年もすればほぼ全容が解明されようとしています。あとは環境因子ですが、ツインリサーチはまさにその環境因子を解明するための究極の研究手段であり、予防医療を可能にする確実な予防法や予防薬の開発が大いに期待されます。

9. 最後に

ツインリサーチの強固な研究基盤を構築することにより、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻を世界の予防医学・医療のメッカにすることができます。そして将来、保健学科/保健学専攻の卒業生が、究極の未来医療である予防医学・医療の世界で大活躍する時代が来ることを夢見ています。

予防診断学研究室略譜

平成 5 年(1993 年)10 月 1 日

大阪大学医療技術短期大学部が医学部保健学科に改組された。

平成 6 年(1994 年)4 月 1 日

岩谷良則が教授に着任。1 期生が保健学科に入学した。

平成 9 年(1997 年)4 月 1 日

保健学科 2 期棟(現在の研究棟)が竣工した。

検査技術科学専攻病態生体情報学講座に予防診断学研究室が開設された。

渡邊幹夫が助手に着任。1 期生 5 名を特別研究生として迎えた。

平成 10 年(1998 年)4 月 1 日

医学系研究科保健学専攻修士課程が設置された。

平成 12 年(2000 年)4 月 1 日

医学系研究科保健学専攻博士後期課程が設置された。

平成 15 年(2003 年)4 月 1 日

大学院講座化に伴い、医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座所属となった。

平成 16 年(2004 年)4 月 1 日

大阪大学が独立行政法人化され、国立大学法人になった。

平成 19 年(2007 年)7 月 15 日

研究室開設 10 周年記念パーティを開催(ホテルグランヴィア大阪)

平成 21 年(2009 年)4 月 1 日

医学系研究科附属ツインリサーチセンター兼務となった。

平成 24 年(2012 年)4 月 1 日

渡邊幹夫が准教授に昇任した。

受け入れ学生数(延べ人数) <別冊の名簿をご参照ください>

特別研究生 81 名(1 期生～16 期生) 研究生 3 名

大 学 院 修士課程学生 46 名 博士課程学生 26 名(うち社会人入学 22 名)

(研究室名簿掲載人数 教員 2 名 学生 118 名 計 120 名)

平成 24 年度(2012 年度)現在の構成員

教 授 岩谷 良則

准教授 渡邊 幹夫

博士後期課程 岸野 好純、井上 直哉、砂田 淳子、香川 朋也

博士前期課程 石戸奈穂子、稲岡 知紗、川端麻友美、澁谷さやか、山川 法子
井之上侑加、川口 隼佳、猿丸 深香、伊達亜理沙、水間 知世

特別研究学生 大津 裕、勝又 由佳、佐伯みのり、島末安沙美、久本 裕子
矢野由希子、吉江 南希

予防診断学研究室のいままでの構成員

入学時の姓で記載しています。()内は新姓です。

学部（特別研究生）

- 1期生:出原 泉(松村)、中條 志保(伊藤)、西川 志津(丹羽)、丸岡 隼人、山下 美保子
2期生:大石 純子、押部 愛(鈴川)、香川 朋也、山口 明子
3期生:上田 安希子、辛島 貴人、信田 梨江(長張)、仁木 誠、西 由起子(佐藤)
4期生:喜多 美文、坂本 祥美(雑賀)、中村 幸代(小野崎)、
中本 由美(香川)、八木 京子(柴田)
5期生:平川 要(岡)、若松 妙子(大西)、渡部 親美、渡部 由布子(永田)
6期生:伊藤 千聡(藤原)、佐藤 順子(土屋)、山藤 智子(溝上)、
清水 規子(深浦)、菅野 恵(二瓶)
7期生:奥田 典子(藤田)、笠原 泉、津田 愛美(杉田)、傳寶 智佳湖(小野)、中野 愛子
8期生:石上 智愛(河合)、上田 大史、岡本 典子、清水石 裕、和田 恵
9期生:飯田 貴雄、篠田 久子(酒井)、山口 李恵(横山)、山下 有加、湯村 暁
10期生:石川 明奈(竹内)、須崎 有起子、中口 あづさ(岡田)、藤田 典子、前田 美紀
11期生:井阪 園佳(徳原)、井上 直哉、岡 みゆき、藤井 一貴、丸尾 理恵
12期生:門吉 理奈、早水 徳良、槇原 朋也、森田 麻美
13期生:赤松 佑理、高津 有沙、小林 渉、佐野 茉里奈、武村 和哉、田村 彩花
14期生:稲岡 知紗、小野 理絵、川端 麻友美、岸 加那子、宮原 由美、山川 法子
15期生:井之上 侑加、大津 裕、川口 隼佳、猿丸 深香、伊達 亜理沙、水間 知世
16期生:勝又 由佳、佐伯 みのり、島末 安沙美、久本 裕子、矢野 由希子、吉江 南希

大学院（博士前期課程）

- 1期生:丸岡 隼人
2期生:香川 朋也、多田 和年
3期生:上田 安希子、信田 梨江(長張)、仁木 誠
4期生:中村 幸代(小野崎)、中本 由美(香川)
5期生:(なし)
6期生:伊藤 千聡(藤原)、山藤 智子(溝上)、菅野 恵(二瓶)
7期生:奥田 典子(藤田)、笠原 泉、中野 愛子
8期生:上田 大史、岡本 典子、清水石 裕、和田 恵
9期生:山下 有加、南波 崇、山田 宏哉
10期生:須崎 有起子、中口 あづさ(岡田)、林 文明、藤田 典子
11期生:井上 直哉、小林 彩香、富澤 理恵、延原 崇之、丸尾 理恵
12期生:森田 麻美

13 期生:赤羽 舞子、荒川 裕也、小林 渉、武村 和哉、松本 智紗

14 期生:石戸 奈穂子、稲岡 知紗、川端 麻友美、澁谷 さやか、山川 法子

15 期生:井之上 侑加、川口 隼佳、猿丸 深香、伊達 亜理沙、水間 知世

大学院（博士後期課程）（*は社会人特別選抜）

1期生:浅利 誠志*、野島 順三*、林 貞夫*

2期生:小松 方*、竹岡 啓子*、出口 松夫*、山西 八郎*

3期生:平谷 仁美(近藤)、長濱 大輔*

4期生:黒田 将子、小島 夫美子*、畑中 徳子*

5期生:黒本 光一*、田村 京子、爲近 美榮*

6期生:吉岡 範

7期生:喜多 美文(学部4期生)*、林田 雅彦*

8期生:永瀬 澄香*、花田 浩之*

9期生:竹田 真由*、西 功*

10 期生:山田 宏哉(博士前期課程9期生)

11 期生:岸野 好純*

12 期生:井上 直哉(博士前期課程 11 期生)*、砂田 淳子*

13 期生:香川 朋也(博士前期課程2期生)*

研究生

1期生:山本 尚子(尾西)

2期生:木村 友佳理

7期生:傳寶 智佳湖(小野)

受賞歴

研究室開設以降の当研究室所属教員・学生の在籍中の受賞を、年代を遡ってまとめました。

渡邊 幹夫	NACB Distinguished Abstract Award (Annual Meeting of American Association for Clinical Chemistry) (2012)
荒川 裕也	第 54 回日本甲状腺学会トラベルグラント(2011)
武村 和哉	第 54 回日本甲状腺学会トラベルグラント(2011)
稲岡 知紗	平成 22 年度保健学科賞(2010)
山田 宏哉	平成 22 年度保健学専攻優秀論文賞(2010)
山田 宏哉	第 53 回日本甲状腺学会 第 7 回若手奨励賞(YIA)(2010)
森田 麻美	第 53 回日本甲状腺学会トラベルグラント(2010)
山田 宏哉	平成 22 年度日本臨床化学会 奨励賞(2010)
井上 直哉	平成 21 年度保健学専攻優秀論文賞(2009)
井上 直哉	第 48 回近畿医学検査学会学術奨励賞(2009)
山田 宏哉	第 52 回日本甲状腺学会トラベルグラント(2009)
井上 直哉	第 52 回日本甲状腺学会トラベルグラント(2009)
井上 直哉	Young Investigator Award (9th Congress of Asia and Oceania Thyroid Association)(2009)
喜多 美文	第 41 回日本臨床検査自動化学会論文賞(2009)
渡邊 幹夫 ほか	第 55 回日本臨床検査医学会優秀演題賞(2008)
林 文明	第 51 回日本甲状腺学会トラベルグラント(2008)
井上 直哉	平成 19 年度大阪大学楠本賞(2007)
吉岡 範	第 39 回日本臨床検査自動化学会茂手木優秀演題賞(2007 年)
伊藤 千聡	第 48 回日本甲状腺学会トラベルグラント(2005 年)
渡邊 幹夫 ほか	第 33 回日本臨床免疫学会優秀ポスター賞(2005 年)
渡邊 幹夫	大阪大学共通教育賞(学科内表彰)(2005 年)
岩谷 良則	第 47 回日本甲状腺学会 第 1 回医学応用賞(2004 年)
渡邊 幹夫	第 47 回日本甲状腺学会 第 1 回若手奨励賞(YIA)(2004 年)
平谷 仁美	第 47 回日本甲状腺学会 第 1 回若手奨励賞(YIA)(2004 年)
渡邊 幹夫	ICCC Kyoto Award (18th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine) (2002)

英文原著論文・総説

研究室開設以降の掲載論文・総説で、

岩谷または渡邊が著者に入っているものを、年代を遡ってまとめました。

(邦文原著・総説については完全なリストの作成が困難ですので割愛しています)

1. Arakawa, Y., Watanabe, M., Inoue, N., Sarumaru, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Association of polymorphisms in *DNMT1*, *DNMT3A*, *DNMT3B*, *MTHFR*, and *MTRR* genes with global DNA methylation levels and prognosis of autoimmune thyroid disease. *Clin Exp Immunol* (in press)
2. Inoue, N., Watanabe, M., Yamada, H., Takemura, K., Hayashi, F., Yamakawa, N., Akahane, M., Shimizuishi, Y., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Associations between autoimmune thyroid disease prognosis and functional polymorphisms of susceptibility genes, *CTLA4*, *PTPN22*, *CD40*, *FCRL3*, and *ZFAT*, previously revealed in Genome-wide association studies. *J Clin Immunol* (in press)
3. Yamada, H., Takano, T., Kihara, M., Hirokawa, M., Yoshida, H., Watanabe, M., Iwatani, Y., Hidaka, Y., Miyauchi, A.: Measurement of TFF3 mRNA in aspirates from thyroid nodules using mesh filtration: The first clinical trial in 130 cases. *Endocrine J* 2012 Apr 26 online. [doi: 10.1507/endocrj.EJ12-0077]
4. Yamada, H., Yamakawa, N., Watanabe, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y., Takano, T.: Prolonged hybridization with a cRNA probe improves the signal to noise ratio for in-tube in situ hybridization for quantification of mRNA after fluorescence-activated cell sorting. *Biotech Histochem* [doi: 10.3109/10520295.2012.672650] (in press)
5. Morita, M., Watanabe, M., Inoue, N., Inaoka, C., Akamizu, T., Tatsumi, K., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Functional polymorphisms in *TBX21* and *HLX* are associated with development and prognosis of Graves' disease. *Autoimmunity*, **45**(2), 129-36, 2012 [doi: 10.3109/08916934.2011.622013]
6. Hanada, H., Mugii, S., Takeoka, K., Maeda, I., Watanabe, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Preparation of a cut-off solution that gives a clear index for distinguishing Le(a-b-) sera in CA19-9 assays using SphereLight 180 and Architect i2000 kits. *Clinica Chimica Acta*, **413**(1-2), 278-281, 2012
7. Tomizawa, R., Watanabe, M., Inoue, N., Takemura, K., Hidaka, Y., Akamizu, T., Hayakawa, K., Iwatani, Y.: Association of functional *GITR* gene polymorphisms related to expression of GITR molecules with prognosis of autoimmune thyroid disease. *Clin Exp Immunol*, **165**(2), 141-147, 2011
8. Inoue, N., Watanabe, M., Morita, M., Tatsumi, K., Hidaka, Y., Akamizu, T., Iwatani, Y.: Association of functional polymorphisms in promoter regions of *IL5*, *IL6*, and *IL13* genes with

- development and prognosis of autoimmune thyroid diseases. *Clin Exp Immunol*, **163**(3), 318-323, 2011
9. Maruo, R., Yamada, H., Watanabe, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y., Takano, T.: mRNA quantification after fluorescence activated cell sorting using locked nucleic acid probes. *Mol Biotechnol*, **49**(1), 42-47, 2011
 10. Yamada, H., Takano, T., Matsuzuka, F., Watanabe, M., Miyauchi, A., Iwatani, Y.: Transcriptional activity of the 5'-flanking region of the thyroid transcription factor-1 gene in human thyroid cell lines. *Genet Mol Biol*, **34**(1), 6-10, 2011
 11. Nishi, I., Sunada, A., Toyokawa, M., Asari, S., Iwatani, Y.: Evaluation of amphotericin B and micafungin combination against clinical isolates of *Aspergillus* species. *J Chemother*, **23**(2):102-6, 2011
 12. Inoue, N., Watanabe, M., Morita, M., Tomizawa, R., Akamizu, T., Tatsumi, K., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Association of functional polymorphisms related to the transcriptional level of *FOXP3* with prognosis of autoimmune thyroid diseases. *Clin Exp Immunol*, **162**(3), 402-406, 2010
 13. Yamada, H., Maruo, R., Watanabe, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y., Takano, T.: Messenger RNA quantification after fluorescence activated cell sorting using in situ hybridization. *Cytometry Part A*, **77**(11), 1032-1037, 2010
 14. Yamada, H., Maruo, R., Watanabe, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y., Takano, T.: Messenger RNA quantification after fluorescence activated cell sorting using intracellular antigens. *Biochem Biophys Res Commun*. **397**(3), 425-428, 2010
 15. Kuromoto, K., Watanabe, M., Adachi, K., Ohashi, K., Iwatani, Y.: Increases in urinary creatinine and blood pressure during early pregnancy in preeclampsia. *Ann Clin Biochem*, **47**(Pt 4), 336-342, 2010
 16. Kuroda, S., Watanabe, M., Santo, T., Shimizuishi, Y., Takano, T., Hidaka, Y., Kimura, T., Iwatani, Y.: Postpartum increase of serum thioredoxin concentrations and the relation to CD8 lymphocytes. *Ann Clin Biochem* **47**(Pt 1), 62-66, 2010
 17. Hayashi, F., Watanabe, M., Nanba, T., Inoue, N., Akamizu, T., Iwatani, Y.: Association of -31C/T functional polymorphism in the interleukin-1beta gene with the intractability of Graves' disease and the proportion of Th17 cells. *Clin Exp Immunol* **158**(3), 281-286, 2009
 18. Hanada, H., Mugii, S., Takeoka, K., Maeda, I., Watanabe, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Early detection of metastasis and relapse of colorectal cancer by recognizing NCA-2 in commercially available CEA assay. *Clin Chem*, **55**(9), 1747-1751, 2009
 19. Nanba, T., Watanabe, M., Inoue, N., Iwatani, Y.: Increases of the Th1/Th2 cell ratio in severe Hashimoto's disease and in the proportion of Th17 cells in intractable Graves' disease. *Thyroid* **19**(5), 495-501, 2009

20. Yamada H., Takano, T., Ito, Y., Matsuzuka, F., Miya, A., Kobayashi, K., Yoshida, H., Watanabe, M., Iwatani, Y., Miyauchi, A.: Expression of nestin mRNA is a differentiation marker in thyroid tumors. *Cancer Lett* **280**(1):61-4, 2009
21. Inoue, N., Watanabe, M., Nanba, T., Wada, M., Akamizu, T., Iwatani, Y.: Involvement of functional polymorphisms in the *TNFA* gene in the pathogenesis of autoimmune thyroid diseases and production of anti-TSH receptor antibody. *Clin Exp Immunol* **156**(2), 199-204, 2009
22. Nojima J, Iwatani Y, Ichihara K, Ishikawa T, Tsuneoka H, Yanagihara M, Takano T, Hidaka Y. Acquired activated protein C resistance is associated with IgG antibodies to protein S in patients with systemic lupus erythematosus. *Thromb Res*, **124**(1), 127-131, 2009
23. Kita, M., Deguchi, M., Kagita, M., Yoshioka, N., Kobayashi, E., Watanabe, M., Asari, S., Yamanaka, K., Iwatani, Y.: Clinical utility and characteristics of nine anti-HCV antibody screening reagents used in Japan. *Clinical Laboratory* **55**, 9-22, 2009
24. Nishi, I., Sunada, A., Toyokawa, M., Asari, S., Iwatani, Y.: In vitro antifungal combination effects of micafungin with fluconazole, voriconazole, amphotericin B, and flucytosine against clinical isolates of *Candida* species. *J Infect Chemother*, **15**(2):123-4, 2009
25. Nojima J, Masuda Y, Iwatani Y, Kuratsune H, Watanabe Y, Suehisa E, Takano T, Hidaka Y, Kanakura Y. Arteriosclerosis obliterans associated with anti-cardiolipin antibody / beta2-glycoprotein I antibodies as a strong risk factor for ischaemic heart disease in patients with systemic lupus erythematosus. *Rheumatology (Oxford)* **47**, 684-9, 2008
26. Nanba, T., Watanabe, M., Akamizu, T., Iwatani, Y.: The -590CC genotype in interleukin-4 gene as a strong predictive factor for the development of hypothyroidism in Hashimoto's disease. *Clin Chem* **54**(3), 621-623, 2008
27. Watanabe, M., Nakamura, Y., Matsuzuka, F., Takamura, Y., Miyauchi, A., Iwatani, Y.: Decrease of intrathyroidal CD161⁺Valpha24⁺Vbeta11⁺ NKT cells in Graves' disease. *Endocrine J* **55**(1), 199-203, 2008
28. Hatanaka, N., Yamamoto, Y., Ichihara, K., Sato, A., Chihara, K., Nakamura, Y., Watanabe, M., Iwatani, Y.: A new predictive indicator for development of pressure ulcer in bedridden patients based on common laboratory tests results. *J Clin Pathol* **61**(4), 514-8, 2008
29. Yamada, H., Watanabe, M., Nanba, T., Akamizu, T., Iwatani, Y.: The 869T/C polymorphism in the transforming growth factor-beta1 gene is associated with the severity and intractability of autoimmune thyroid disease. *Clin Exp Immunol* **151**(3), 379-82, 2008
30. Nojima J, Masuda Y, Iwatani Y, Suehisa E, Futsukaichi Y, Kuratsune H, Watanabe Y, Takano T, Hidaka Y, Kanakura Y. Tissue factor expression on monocytes induced by anti-phospholipid antibodies as a strong risk factor for thromboembolic complications in SLE patients. *Biochem Biophys Res Commun* **365**:195-200, 2008

31. Santoh, T., Watanabe, M., Kuroda, S., Ueda, D., Iwatani, Y.: Ratio of serum IgG₃ to total IgG concentration and goiter size are independent factors in intractability of Graves' disease. *Endocrine J* **54**(6), 887-894, 2007
32. Yoshioka, N., Deguchi, M., Kagita, M., Kita, M., Watanabe, M., Asari, S., Iwatani, Y.: Evaluation of a chemiluminescent microparticle immunoassay for determination of *Treponema pallidum* antibodies. *Clin Lab* **53**, 597-603, 2007
33. Yamanishi H, Imai N, Suehisa E, Kanakura Y, Iwatani Y. Determination of leukocyte counts in cerebrospinal fluid with a disposable plastic hemocytometer. *J Clin Lab Anal* **21**:282-5, 2007
34. Tamura K, Nakajima S, Hirota Y, Takahashi KA, Fujioka M, Kubo T, Iwatani Y, Ozono K. Genetic association of a polymorphism of the cAMP-responsive element binding protein-binding protein with steroid-induced osteonecrosis after kidney transplantation. *J Bone Miner Metab* **25**:320-5, 2007
35. Kabutomori O, Kanakura Y, Iwatani Y. Characteristic Changes in Platelet-Large Cell Ratio, Lactate Dehydrogenase and C-Reactive Protein in Thrombocytosis-Related Diseases. *Acta Haematol* **118**:84-87, 2007
36. Yamanishi H, Kimura S, Hata N, Iyama S, Kanakura Y, Iwatani Y: Evaluation of a model of latent pathologic factors in relation to serum ferritin elevation. *Clin Biochim* **40**:359-364, 2007
37. Nakano A, Watanabe M, Iida T, Kuroda S, Matsuzuka F, Miyauchi A, Iwatani Y: Apoptosis induced decrease of intrathyroidal CD4⁺CD25⁺ regulatory T cells in autoimmune thyroid diseases. *Thyroid*, **17**(1), 25-31, 2007
38. Ito C, Watanabe M, Okuda N, Watanabe C, Iwatani Y: Association between the severity of Hashimoto's disease and the functional +874A/T polymorphism in the interferon-gamma gene. *Endocrine J* **53**, 473-478, 2006
39. Kojima F, Nakagami Y, Takemori K, Iwatani Y, Fujimoto S: Penicillin susceptibility of non-serotypeable *Streptococcus pneumoniae* from ophthalmic specimens. *J Antimicrob Chemother* **12**:199-202, 2006
40. Yamanishi H, Imai N, Ohmine T, Nishiyama M, Suehisa E, Kanakura Y, Iwatani Y: Urine flow cytometer quantification of leukocytes in samples containing a large proportion of lymphocytes. *Clin Biochem* **39**:857-9, 2006
41. Tamechika Y, Iwatani Y, Tohyama K, Ichihara K: Insufficient filling of vacuum tubes as a cause of microhemolysis and elevated serum lactate dehydrogenase levels. Use of a data-mining technique in evaluation of questionable laboratory test results. *Clin Chem Lab Med* **44**:657-661, 2006
42. Nojima J, Iwatani Y, Suehisa E, Kuratsune H, Kanakura Y: The presence of anti-phosphatidylserine/prothrombin antibodies as risk factor for both arterial and venous thrombosis in patients with systemic lupus erythematosus. *Thrombosis* **91**:699-702, 2006

43. Nagahama D, Yoshiko K, Watanabe M, Morita Y, Iwatani Y, Matsuo S: A useful new classification of dysmorphic urinary erythrocytes. *Clin Exp Nephrol* **9**:304-9, 2005
44. Kabutomori O, Kanakura Y, Iwatani Y: Inflammation and liver dysfunction. *Ann Hematol* **84**:136, 2005
45. Nojima J, Kuratsune H, Suehisa E, Iwatani Y, Kanakura Y: Acquired activated protein C resistance associated with IgG antibodies against beta2-glycoprotein I and prothrombin as a strong risk factor for venous thromboembolism. *Clin Chem* **51**:545-52, 2005
46. Hiratani H, Bowden DW, Ikegami S, Shirasawa S, Shimizu A, Iwatani Y, Akamizu T: Multiple SNPs in intron 7 of thyrotropin receptor are associated with Graves' disease. *J Clin Endocrinol Metab* **90**:2898-903, 2005
47. Nakamura, Y. Watanabe, M. Matsuzuka, F. Miyauchi, A. Iwatani, Y Intrathyroidal CD4⁺ T lymphocytes express high levels of Fas and CD4⁺CD8⁺ macrophages / dendritic cells express Fas ligand in autoimmune thyroid disease. *Thyroid* **14**(10): 819-824, 2004
48. Nojima J, Kuratsune H, Suehisa E, Kitani T, Iwatani Y, Kanakura Y. 2004 Strong correlation between the prevalence of cerebral infarction and the presence of anti-cardiolipin/beta2-glycoprotein I and anti-phosphatidylserine/prothrombin antibodies - Co-existence of these antibodies enhances ADP-induced platelet activation in vitro. *Thromb Haemost* **91**:967-76
49. Hayashi S, Ichihara K, Kanakura Y, Iwatani Y. 2004 A new quality control method based on a moving average of "latent reference values" selected from patients' daily test results. *Rinsho Byori* **52**:204-211
50. Deguchi M, Yamashita N, Kagita M, Asari S, Iwatani Y, Tsuchida T, Iinuma K, Mushahwar IK 2004 Quantitation of Hepatitis B Surface Antigen by an Automated Chemiluminescent Microparticle Immunoassay. *J Virol Methods* **115**:217-222
51. Yamamoto, N. Watanabe, M. Matsuzuka, F. Miyauchi, A. Iwatani, Y 2004 Lower concentration of serum soluble CD8 in severe Hashimoto's disease. *Clin Exp Immunol* **137**: 601-605
52. Watanabe M. Yamamoto N. Matsuzuka F. Miyauchi A. Iwatani Y. 2004 Decrease of CD154 intensity on peripheral CD4⁺ T cells in autoimmune thyroid disease. *Clin Exp Immunol* **136**:555-558
53. Maruoka H. Watanabe M. Matsuzuka F. Takimoto T. Miyauchi A. Iwatani Y. 2004 Increased intensities of Fas expression on peripheral T cell subsets in severe autoimmune thyroid disease. *Thyroid* **14**(6): 417-423
54. Takeoka K, Watanabe M, Matsuzuka F, Miyauchi A, Iwatani Y. 2004 Increase of serum Interleukin-10 in intractable Graves' disease. *Thyroid* **14**:201-205

55. Yamanishi H, Iyama S, Yamaguchi Y, Kanakura Y, Iwatani Y 2003 Total iron-binding capacity calculated from serum transferrin concentration or serum iron concentration and unsaturated iron-binding capacity. *Clin Chem* **49**:175-8.
56. Yamanishi H, Iyama S, Yamaguchi Y, Kanakura Y, Iwatani Y 2003 Modification of the colorimetric assay for serum unsaturated iron-binding capacity. *Clin Chem* **49**:1023-5.
57. Yamamoto S, Iwasaki Y, Mino N, Watanabe M 2003 Basic study on human psychological and physiological characteristics in responses to existing plants in urban parks. *Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture, International Edition* **2**, 25-30,
58. Watanabe M, Yamamoto N, Maruoka H, Matsuzuka F, Miyauchi A, Iwatani Y 2003 Relation of CD30 molecules on T-cell subsets to the severity of autoimmune thyroid disease. *Thyroid* **13**:259-63.
59. Toyokawa M, Asari S, Nishi I, Horikawa M, Tsukamoto H, Sunada A, Ueda A, Iwatani Y 2003 In vitro combined effects of cefozopran/teicoplanin and cefozopran/vancomycin on methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. *J Chemother* **15**:31-6.
60. Shinoda R, Watanabe M, Nakamura Y, Maruoka H, Kimura Y, Iwatani Y 2003 Physiological changes of Fas expression in peripheral lymphocyte subsets during the menstrual cycle. *J Reprod Immunol* **60**:159-68.
61. Nakamoto Y, Niki M, Watanabe M, Iwatani Y 2003 Increase in immunoglobulin g3-secreting cells in intractable graves' disease. *Thyroid* **13**:325-31.
62. Komatsu M, Aihara M, Shimakawa K, Iwasaki M, Nagasaka Y, Fukuda S, Matsuo S, Iwatani Y 2003 Evaluation of MicroScan ESBL confirmation panel for Enterobacteriaceae-producing, extended-spectrum beta-lactamases isolated in Japan. *Diagn Microbiol Infect Dis* **46**:125-30.
63. Komatsu M, Kato H, Aihara M, Shimakawa K, Iwasaki M, Nagasaka Y, Fukuda S, Matsuo S, Arakawa Y, Watanabe M, Iwatani Y 2003 High Frequency of Antibiotic-Associated Diarrhea due to Toxin A-Negative, Toxin B-Positive *Clostridium difficile* in a Hospital in Japan and Risk Factors for Infection. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis*
64. Kabutomori O, Kanakura Y, Iwatani Y 2003 Incorrect measurement of leukocyte counts in post-bone marrow transplantation (P-BMT) patients. *Ann Hematol* **82**:529-30.
65. Kabutomori O, Kanakura Y, Iwatani Y 2003 Marked decreases of total and immature reticulocytes in myelodysplastic syndrome among patients with pancytopenia. *Acta Haematol* **109**:212-3.
66. Asari S, Deguchi M, Tahara K, Taniike M, Toyokawa M, Nishi I, Watanabe M, Iwatani Y, Makimoto K 2003 Seroprevalence survey of measles, rubella, varicella, and mumps antibodies in health care workers and evaluation of a vaccination program in a tertiary care hospital in Japan. *Am J Infect Control* **31**:157-62.

67. Yamanishi H, Iyama S, Yamaguchi Y, Kanakura Y, Iwatani Y 2002 Modification of fully automated total iron-binding capacity (TIBC) assay in serum and comparison with dimension TIBC method. *Clin Chem* **48**:1565-70.
68. Yamanishi H, Iyama S, Yamaguchi Y, Kanakura Y, Iwatani Y 2002 Relation between iron content of serum ferritin and clinical status factors extracted by factor analysis in patients with hyperferritinemia. *Clin Biochem* **35**:523-9.
69. Watanabe M, Yamamoto N, Maruoka H, Tamai H, Matsuzuka F, Miyauchi A, Iwatani Y 2002 Independent involvement of CD8⁺ CD25⁺ cells and thyroid autoantibodies in disease severity of Hashimoto's disease. *Thyroid* **12**:801-8.
70. Nojima J, Kuratsune H, Suehisa E, Kawasaki T, Machii T, Kitani T, Iwatani Y, Kanakura Y 2002 Acquired activated protein C resistance is associated with the co-existence of anti-prothrombin antibodies and lupus anticoagulant activity in patients with systemic lupus erythematosus. *Br J Haematol* **118**:577-83.
71. Nojima J, Kuratsune H, Suehisa E, Kawasaki T, Machii T, Kitani T, Iwatani Y, Kanakura Y 2002 Acquired activated protein C resistance associated with anti-protein S antibody as a strong risk factor for DVT in non-SLE patients. *Thromb Haemost* **88**:716-22.
72. Kabutomori O, Kanakura Y, Iwatani Y 2002 Movement of toxic granulation neutrophils and C-reactive protein in inflammatory processes. *Am J Med* **112**:595-6.
73. Kabutomori O, Kanakura Y, Iwatani Y 2002 Induction of toxic granulation in neutrophils by granulocyte colony-stimulating factor. *Eur J Haematol* **69**: 187-8
74. Watanabe K, Watanabe M, Maruoka H, Amino N, Iwatani Y 2001 Increase of CD5⁺ B cells during adolescence in female mice. *Mech Ageing Dev* **122**:1787-95.
75. Nojima J, Kuratsune H, Suehisa E, Futsukaichi Y, Yamanishi H, Machii T, Iwatani Y, Kanakura Y 2001 Association between the prevalence of antibodies to beta(2)-glycoprotein I, prothrombin, protein C, protein S, and annexin V in patients with systemic lupus erythematosus and thrombotic and thrombocytopenic complications. *Clin Chem* **47**:1008-15.
76. Nojima J, Kuratsune H, Suehisa E, Futsukaichi Y, Yamanishi H, Machii T, Kitani T, Iwatani Y, Kanakura Y 2001 Anti-prothrombin antibodies combined with lupus anti-coagulant activity is an essential risk factor for venous thromboembolism in patients with systemic lupus erythematosus. *Br J Haematol* **114**:647-54.
77. Kabutomori O, Iwatani Y 2001 Phagocytosis decreases the density of IgG-Fc receptor III on neutrophils. *Ann Hematol* **80**:443-4.
78. Kabutomori O, Kanakura Y, Iwatani Y 2001 Increase in platelet-large cell ratio in chronic myeloid leukemia. *Leuk Res* **25**:873.
79. Kabutomori O, Iwatani Y, Kanakura Y, Kabutomori O 2000 Toxic granulation neutrophils and C-reactive protein. *Arch Intern Med* **160**:3326-7.

80. Iwatani Y, Watanabe M 1999 Normal mechanisms for self-tolerance. *In Autoimmune Endocrinopathies (edited by Volpe R.)*, Humana Press, INC., Totawa, 1-30
81. Kabutomori O, Iwatani Y, Kabutomori M 1999 Effects of hypertriglyceridemia on platelet counts in automated hematologic analysis. *Ann Intern Med* **130**:452.
82. Kabutomori O, Yanagihara T, Iwatani Y, Kawarazaki A, Kabutomori M 1999 Sex difference in myeloperoxidase activity of neutrophils. *Am J Hematol* **60**:312-3.
83. Iwatani Y, Watanabe M 1998 The maternal immune system in health and disease. *Curr Opin Obstet Gynecol* **10**:453-8.
84. Watanabe M, Iwatani Y, Kaneda T, Hidaka Y, Mitsuda N, Morimoto Y, Amino N 1997 Changes in T, B, and NK lymphocyte subsets during and after normal pregnancy. *Am J Reprod Immunol* **37**:368-77.
85. Watanabe M, Amino N, Hochito K, Watanabe K, Kuma K, Iwatani Y 1997 Opposite changes in serum soluble CD8 in patients at the active stages of Graves' and Hashimoto's diseases. *Thyroid* **7**:743-7.
86. Kabutomori O, Iwatani Y, Koh T, Yanagihara T 1997 CD16 antigen density on neutrophils in chronic myeloproliferative disorders. *Am J Clin Pathol* **107**:661-4.
87. Kabutomori O, Iwatani Y 1997 Unusual eosinophilia not detected by an automated haematological analyser in a patient with liver cirrhosis. *J Clin Pathol* **50**:967-9.

国際学会発表

研究室開設以降の国際学会・外国での学会発表について

岩谷または渡邊が演者または共同演者となっているものを、年代を遡ってまとめました。

1. Watanabe, M., Morita, M., Inoue, N., Inaoka, C., Akamizu, T., Tatsumi, K., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Functional polymorphisms in TBX21 and HLX are associated with development and prognosis of Graves' disease. *Annual Meeting of American Association for Clinical Chemistry (AACC) 2012*, Los Angeles, Jul. 15-19, 2012
2. Watanabe, M., Inoue, N., Morita, M., Tomizawa, R., Akamizu, T., Tatsumi, K., Hidaka, Y., Iwatani, Y.: Association of functional polymorphisms related to the transcriptional level of *FOXP3* gene with prognosis of autoimmune thyroid diseases. *14th International Thyroid Congress (ITC)*, Paris, Sept. 11-16, 2010 **(Discussed Poster)**
3. Yamada, H., Takano, T., Kihara, M., Hirokawa, M., Yoshida, H., Watanabe, M., Hidaka, Y., Iwatani, Y., Miyauchi, A.: Measuring TFF3/LGALS3 mRNA ratio in FNABS from thyroid nodule: a clinical trial of eighty cases. *14th International Thyroid Congress (ITC)*, Paris, Sept. 11-16, 2010
4. Watanabe, M., Nanba, T., Inoue, N., Iwatani, Y.: Increases of the Th1/Th2 cell ratio in severe Hashimoto's disease and in the proportion of Th17 cells in intractable Graves' disease. *14th International Congress of Endocrinology (ICE)*, Kyoto, Mar. 26-30, 2010
5. Yamada, H., Takano, T., Kihara, M., Hirokawa, M., Yoshida, H., Watanabe, M., Iwatani, Y., Hidaka, Y., Miyauchi, A.: Preoperative diagnosis of thyroid nodules by measuring TFF3/LGALS3 mRNA (T/G) ratio: A clinical trial of fifty cases. *14th International Congress of Endocrinology (ICE)*, Kyoto, Mar. 26-30, 2010
6. Inoue, N., Watanabe, M., Nanba, T., Akamizu, T., Iwatani, Y.: Involvement of the functional polymorphisms in *TNFA* gene in the pathogenesis of autoimmune thyroid diseases and the production of anti-TSH receptor antibody. *9th Congress of the Asia and Oceania Thyroid Association (AOTA)*, Nagoya, Nov. 2-4, 2009 **(Selected Poster / Young Investigator Award)**
7. Yamada, H., Takano, T., Ito, Y., Matsuzuka, F., Miya, A., Kobayashi, K., Yoshida, H., Watanabe, M., Iwatani, Y., Miyauchi, A.: Expression of nestin mRNA is a differentiation marker in thyroid tumors. *9th Congress of the Asia and Oceania Thyroid Association (AOTA)*, Nagoya, Nov. 2-4, 2009
8. Maruo, R., Yamada, H., Takano, T., Watanabe, M., Iwatani, Y., Hidaka, Y.: An in-tube in situ hybridization method for the novel stem cell detection system, FACS-mQ. *9th Congress of the Asia and Oceania Thyroid Association (AOTA)*, Nagoya, Nov. 2-4, 2009
9. Watanabe, M., Hayashi, F., Nanba, T., Inoue, N., Akamizu, T., Iwatani, Y.: Association of the -31C/T functional polymorphism in the interleukin-1 β gene with the intractability of Graves'

- disease and the proportion of Th17 cells. *80th Annual Meeting of the American Thyroid Association*, Palm Beach, Sep. 23-27, 2009
10. Watanabe, M., Nanba, T., Akamizu, T., Iwatani, Y.: Patients of Hashimoto's disease with -599CC genotype in the IL4 gene would develop hypothyroidism. *79th Annual Meeting of the American Thyroid Association*, Chicago, Oct. 1-5, 2008
 11. Hanada, H., Kagebayashi, C., Kurosawa, T., Kawabata, T., Kitano, H., Li, C., Bousse, L., Watanabe, M., Maeda, I., Takeoka, K., Watanabe, M., Wada, H. G., Hidaka, Y., Iwatani, Y., Satomura, S. et al.: A Novel microfluidic immunoassay to determine AFP-L3% in serum samples. *2008 AACC Annual Meeting*, Washington, DC, July 27-31, 2008
 12. Hanada, H., Takeoka, K., Nomura, T., Yamashita, Y., Namba, T., Watanabe, M., Iwatani Y., Hidaka, Y.: Clinical significance of CEA-family measurement as a marker for metastasis and relapse of cancer. *2007 AACC Annual Meeting & Clinical Lab Expo*, San Diego, July 15-19, 2007
 13. Ito, C, Watanabe, M., Okuda, N., Watanabe, C., Iwatani, Y.: Association between the severity of Hashimoto's disease and the functional +874A/T polymorphism in the interferon-gamma gene. *13th International Thyroid Congress*, Buenos Aires, Oct. 30-Nov.4, 2005
 14. Iwasaki, Y., Yamamoto, S., Kweon, H., Watanabe, M., Asano, F.: Effects of plant's aroma on anti-stress with Plant's leaf tearing task. *The 8th International People-Plant Symposium*. Hyogo, June 4-7, 2004
 15. Watanabe, M., Yamamoto, N., Maruoka, H., Tamai, H., Matsuzuka, F., Miyauchi, A., Iwatani, Y.: Independent involvement of CD8⁺CD25⁺ cells and thyroid autoantibodies in disease severity of Hashimoto's disease. *The 18th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine*, Kyoto, Oct. 20-25, 2002
 16. Watanabe, M., Maruoka, H., Yamamoto, N., Matsuduka, F., Tamai, H., Takimoto, T., Kuma, K., Iwatani, Y.: Increased intensity of Fas expression on peripheral T cell subsets in severe autoimmune thyroid disease. *12th International Thyroid Congress*, Kyoto, Oct. 22-27, 2000
(Discussed Poster)

国内学会発表

研究室開設以降の国内学会発表について

岩谷または渡邊が演者または共同演者となっているものを、年代を遡ってまとめました。

このリストでは特に社会人入学の大学院生につきまして、全てを網羅できていませんのでご了承ください。

1. 渡邊幹夫、井上直哉、森田麻美、巽圭太、日高洋、赤水尚史、岩谷良則： *IL5, IL6, IL13* 遺伝子プロモータ領域の一塩基多型を用いた自己免疫性甲状腺疾患の病態予後予測、第 54 回日本甲状腺学会学術集会(大阪)、2011.11.22
2. 松本智紗、伊藤充、山田宏哉、山川法子、吉田博、伊達亜理沙、渡邊幹夫、日高洋、岩谷良則、宮内昭、高野徹： *D1, D2* 高発現型バセドウ病組織を特徴づける遺伝子のスクリーニング、第 54 回日本甲状腺学会学術集会(大阪)、2011.11.22
3. 武村和哉、渡邊幹夫、澁谷さやか、日高洋、巽圭太、岩谷良則： 自己免疫性甲状腺疾患患者の血清中 *microRNA* の発現量、第 54 回日本甲状腺学会学術集会(大阪)、2011.11.22
4. 荒川裕也、渡邊幹夫、井上直哉、日高洋、巽圭太、岩谷良則： *DNMT1, 3a, 3b* 遺伝子の多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態およびゲノムのメチル化率との関連、第 54 回日本甲状腺学会学術集会(大阪)、2011.11.23
5. 赤羽舞子、渡邊幹夫、井上直哉、日高洋、巽圭太、岩谷良則： ケモカイン遺伝子の機能的多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 54 回日本甲状腺学会学術集会(大阪)、2011.11.23
6. 井上直哉、渡邊幹夫、日高洋、巽圭太、井山茂、林貞夫、岩谷良則： バセドウ病、橋本病の重症度と *IL5, IL6, IL13* 遺伝子の機能的な多型との関連、第 58 回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)、2011.11.18
7. 荒川裕也、渡邊幹夫、井上直哉、日高洋、巽圭太、岩谷良則： *Dnmt1, 3a, 3b* の遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 58 回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)、2011.11.18
8. 武村和哉、渡邊幹夫、澁谷さやか、日高洋、巽圭太、岩谷良則： *MIR329 rs72561778A/G* 多型と自己免疫性甲状腺疾患との関連、第 58 回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)、2011.11.18
9. 小林渉、渡邊幹夫、藤田典子、小林彩香、高村勇貴、宮内昭、岩谷良則： 自己免疫性甲状腺疾患の濾胞上皮細胞における *CD80/CD86* 分子の発現解析、第 58 回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)、2011.11.18
10. 澁谷さやか、渡邊幹夫、武村和哉、岩谷良則： 自己免疫性甲状腺疾患の血清 *microRNA* の発現解析、第 54 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(大津)、2011.10.29
11. 川端麻友美、渡邊幹夫、小林渉、高村勇貴、宮内昭、岩谷良則： 自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺組織における *PD-1, PD-L1, PD-L2* の発現解析、第 54 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(大津)、2011.10.29

12. 石戸奈穂子、渡邊幹夫、井上直哉、巽圭太、日高洋、岩谷良則：機能的な *FAS*, *FASL* 遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態・予後との関連、第 54 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(大津)、2011.10.29
13. 稲岡知紗、渡邊幹夫、荒川裕也、井上直哉、日高洋、巽圭太、岩谷良則：*HLADRB1* 遺伝子型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 54 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(大津)、2011.10.29
14. 渡邊幹夫、井上直哉、森田麻美、巽圭太、日高洋、赤水尚史、岩谷良則：自己免疫性甲状腺炎の病態予後と *IL5*, *IL6*, *IL13* 遺伝子プロモータ領域の多型との関連、第 39 回日本臨床免疫学会総会[免疫疾患学会連合 2011](東京)、2011.9.15
15. 荒川裕也、渡邊幹夫、井上直哉、日高洋、巽圭太、岩谷良則：*DNMT1*, *3A*, *3B* の遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 51 回日本臨床化学会年次学術集会(札幌)、2011.8.27
16. 井上直哉、渡邊幹夫、森田麻美、日高洋、巽圭太、井山茂、林貞夫、岩谷良則：Th2 サイトカイン(*IL5*, *IL6*, *IL13*) 遺伝子の個体差と自己免疫性甲状腺疾患の病態予後との関連、第 51 回日本臨床化学会年次学術集会(札幌)、2011.8.27
17. 渡邊幹夫、井上直哉、森田麻美、巽圭太、日高洋、赤水尚史、岩谷良則：*IL-1*, *IL-6*, *IL-13* 遺伝子プロモータ領域の多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態予後との関連、第 18 回日本遺伝子診療学会大会[遺伝医学合同学術集会 2011](京都)、2011.6.18
18. 武村和哉、渡邊幹夫、延原崇之、赤水尚史、日高洋、岩谷良則：*IL21R* -4610C/T 多型の機能と自己免疫性甲状腺疾患との関連、第 53 回日本臨床検査医学会近畿支部総会[第 50 回近畿医学検査学会・第 30 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会同時開催](奈良)、2010.12.12
19. 荒川裕也、渡邊幹夫、日高洋、巽圭太、赤水尚史、岩谷良則：*DNMT1* の遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態予後との関連、第 53 回日本臨床検査医学会近畿支部総会[第 50 回近畿医学検査学会・第 30 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会同時開催](奈良)、2010.12.12
20. 赤羽舞子、渡邊幹夫、井上直哉、日高洋、巽圭太、赤水尚史、岩谷良則：*IL-16* 及び *MCP-1* 遺伝子の機能的多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態予後との関連、第 53 回日本臨床検査医学会近畿支部総会[第 50 回近畿医学検査学会・第 30 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会同時開催](奈良)、2010.12.12
21. 小林渉、小林彩香、渡邊幹夫、藤田典子、高村勇貴、宮内昭、岩谷良則：三次元培養法を用いた甲状腺濾胞の再構築、第 53 回日本臨床検査医学会近畿支部総会[第 50 回近畿医学検査学会・第 30 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会同時開催](奈良)、2010.12.11
22. 渡邊幹夫、井上直哉、森田麻美、富澤理恵、赤水尚史、巽圭太、日高洋、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の予後に *FOXP3* 発現の個体差が及ぼす影響、第 53 回日本甲状腺学会学術集会(長崎)、2010.11.13

23. 山田宏哉、高野徹、木原実、廣川満良、吉田博、渡邊幹夫、岩谷良則、日高洋、宮内昭：
*TFF3/LGALS3*mRNA 発現比定量による甲状腺癌の穿刺吸引核酸診断法の臨床検討、(YIA
(若手奨励賞)受賞演題)、第 53 回日本甲状腺学会学術集会(長崎)、2010.11.12
24. 森田麻美、渡邊幹夫、稲岡知紗、井上直哉、赤水尚史、巽圭太、日高洋、岩谷良則： 自己
免疫性甲状腺疾患(AITD)の難治性および重症度と*TBX21* 遺伝子多型との関連、第 53 回日
本甲状腺学会学術集会(長崎)、2010.11.12
25. 武村和哉、富澤理恵、渡邊幹夫、井上直哉、早川和生、赤水尚史、日高洋、岩谷良則：
GITR 遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の難治度・重症度との関連、第 50 回日本臨床化
学会年次学術集会(甲府)、2010.9.23
26. 井上直哉、渡邊幹夫、森田麻美、富澤理恵、日高洋、巽圭太、林貞夫、赤水尚史、岩谷良
則： *FOXP3* 遺伝子の個体差と自己免疫性甲状腺疾患の病態予後との関連、第 57 回日本
臨床検査医学会学術集会(東京)、2010.9.11
27. 森田麻美、井上直哉、渡邊幹夫、日高洋、巽圭太、赤水尚史、岩谷良則： 自己免疫性甲状
腺疾患の難治性および重症度と *TBX21* 遺伝子多型との関連、第 57 回日本臨床検査医学会
学術集会(東京)、2010.9.11
28. 高野徹、山田宏哉、渡邊幹夫、岩谷良則、日高洋： 甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引核酸診
断法の開発、第 57 回日本臨床検査医学会学術集会(東京)、2010.9.12
29. 渡邊幹夫、奥宮敏可： 遺伝子検査学実習における危機管理、シンポジウム「学生実習にお
ける危機管理マニュアル作成について」、第 5 回日本臨床検査学教育学会学術大会(弘前)、
2010.8.19
30. 小林渉、渡邊幹夫、小林綾香、岩谷良則： *CD80/CD86* および *HLA-DR* 分子の発現解析に
用いる陽性コントロールの作製、第 5 回日本臨床検査学教育学会学術大会(弘前)、
2010.8.20
31. 渡邊幹夫、井上直哉、森田麻美、富澤理恵、赤水尚史、巽圭太、日高洋、岩谷良則：
FOXP3 遺伝子の機能的多型による個体差と自己免疫性甲状腺疾患の予後との関連、第 17
回日本遺伝子診療学会大会(津)、2010.8.6
32. 森田麻美、井上直哉、渡邊幹夫、岩谷良則： 自己免疫性甲状腺疾患の難治度および重症
度と *PTPN22* 遺伝子多型との関連、第 20 回日本臨床化学会近畿支部総会(大阪)、
2009.12.26
33. 富澤理恵、井上直哉、渡邊幹夫、赤水尚史、早川和生、岩谷良則： 自己免疫性甲状腺疾
患の難治性・重症度と *GITR* 遺伝子多型との関連、第 49 回近畿医学検査学会・第 52 回日本
臨床検査医学会近畿支部総会合同学会(京都)、2009.11.29
34. 延原崇之、林文明、渡邊幹夫、井上直哉、高村勇貴、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則： バセド
ウ病患者における甲状腺内 *IFN- γ* 、*IL-4* 及び *IL-17* 発現細胞の割合、第 49 回近畿医学検査
学会・第 52 回日本臨床検査医学会近畿支部総会合同学会(京都)、2009.11.29

35. 渡邊幹夫、林文明、南波崇、井上直哉、赤水尚史、岩谷良則：(ワークショップ) *IL1B* 遺伝子-31C/T 多型がバセドウ病の難治性と Th17 細胞比率に及ぼす影響、第 37 回日本臨床免疫学会総会(東京)、2009.11.13
36. 渡邊幹夫、林文明、南波崇、井上直哉、赤水尚史、岩谷良則：バセドウ病の難治性と Th17 細胞比率に及ぼす *IL1B* 遺伝子-31C/T 機能的多型の影響、第 52 回日本甲状腺学会(名古屋)、2009.11.4
37. 山田宏哉、高野徹、東山卓也、宇留野隆、木原実、廣川満良、吉田博、渡邊幹夫、岩谷良則、宮内昭：Trefoil factor 3 mRNA 発現量測定による甲状腺濾胞癌の術前診断の確立のための穿刺検体の前処理法の開発、第 52 回日本甲状腺学会(名古屋)、2009.11.4
38. 小林彩香、藤田典子、渡邊幹夫、高村勇貴、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：3次元培養法を用いた甲状腺濾胞上皮細胞膜分子の発現解析、第 52 回日本甲状腺学会(名古屋)、2009.11.4
39. 渡邊幹夫、林文明、南波崇、井上直哉、赤水尚史、岩谷良則：難治性バセドウ病患者での *IL-1B* 遺伝子-31T アリル頻度の増加、第 49 回日本臨床化学学会年次学術集会(長崎)、2009.9.19
40. 山田宏哉、高野徹、東山卓也、宇留野隆、木原実、廣川満良、吉田博、渡邊幹夫、岩谷良則、宮内昭：甲状腺濾胞癌の術前診断法の確立のための穿刺検体の前処理法の開発、第 49 回日本臨床化学学会年次学術集会(長崎)、2009.9.19
41. 渡邊幹夫、中口あづさ、南波崇、延原崇之、林文明、赤水尚史、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の予後と *IL-17* 遺伝子の機能的多型との関連、第 56 回日本臨床検査医学会学術集会(札幌)、2009.8.28
42. 井上直哉、渡邊幹夫、南波崇、赤水尚史、岩谷良則：TNF- α 遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 56 回日本臨床検査医学会学術集会(札幌)、2009.8.28
43. 黒本光一、中西千恵子、渡邊幹夫、岩谷良則：血清情報「乳び」で予測可能な異常タンパク質の増加とその影響に関する検討、第 56 回日本臨床検査医学会学術集会(札幌)、2009.8.28
44. 巽圭太、須崎由起子、松井昌彦、竹岡啓子、林貞夫、渡邊幹夫、岩谷良則、日高洋：簡便な患者検体結果の代表値(中央値)の評価と管理検体結果と組み合わせた後方視的な利用法の検討、第 56 回日本臨床検査医学会学術集会(札幌)、2009.8.27
45. 渡邊幹夫：実習に伴う危機管理の現況(イブニングセミナー「学生実習における危機管理マニュアル作成について」)、第 4 回日本臨床検査学教育学会学術大会(東京)、2009.8.20
46. 渡邊幹夫、林文明、南波崇、井上直哉、赤水尚史、岩谷良則：*IL1B* 遺伝子-31C/T 多型とバセドウ病の難治性および Th17 細胞比率との関連、第 16 回日本遺伝子診療学会大会(札幌)、2009.8.1
47. 延原崇之、林文明、渡邊幹夫、赤水尚史、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の難治性及び重症度と CTLA-4 遺伝子における+49A/G 及び CT60A/G 多型との関連、第 82 回日本内分泌学会学術総会(前橋)、2009.4.25

48. 井上直哉、中口あづさ、上田大史、渡邊幹夫、赤水尚史、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の難治性および重症度と IL-12/IL-12R 遺伝子多型との関連、第 82 回日本内分泌学会学術総会(前橋)、2009.4.25
49. 延原崇之、林文明、渡邊幹夫、赤水尚史、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の予後と CTLA-4 CT60A/G 及び+49A/G 遺伝子多型との関連、第 19 回日本臨床化学学会近畿支部総会(大阪)、2009.1.24
50. 渡邊幹夫、南波崇、井上直哉、岩谷良則：重症橋本病における末梢 Th1/Th2 細胞数比の増加と難治性バセドウ病における末梢 Th17 細胞比率の増加、第 55 回日本臨床検査医学会学術集会(名古屋)、2008.11.28
51. 林文明、渡邊幹夫、井上直哉、赤水尚史、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の難治性・重症度と Interleukin-1 β -31C/T 遺伝子多型との関連、第 55 回日本臨床検査医学会学術集会(名古屋)、2008.11.28
52. 藤田典子、山下有加、渡邊幹夫、高村勇貴、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺組織における GITR/GITRL 発現部位の検討、第 55 回日本臨床検査医学会学術集会(名古屋)、2008.11.28
53. 黒本光一、渡邊幹夫、岩谷良則：乳び検体が梅毒血清検査のラテックス凝集法に及ぼす影響に関する検討、第 55 回日本臨床検査医学会学術集会(名古屋)、2008.11.29
54. 渡邊幹夫、南波崇、井上直哉、岩谷良則：甲状腺破壊が高度な橋本病における Th1/Th2 細胞数比の増加と難治性バセドウ病における Th17 細胞の増加、第 51 回日本甲状腺学会学術集会(宇都宮)、2008.11.22
55. 林文明、山田宏哉、山下有加、渡邊幹夫、高村勇貴、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺上皮細胞 GITRL 発現と甲状腺浸潤制御性 T 細胞の膜結合型 TGF- β 及び GITR 発現の増強、第 51 回日本甲状腺学会学術集会(宇都宮)、2008.11.22
56. 井上直哉、林文明、南波崇、渡邊幹夫、赤水尚史、岩谷良則：TNF- α 遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 48 回近畿医学検査学会・第 51 回日本臨床検査医学会近畿支部総会合同学会(神戸)、2008.10.18
57. 渡邊幹夫、南波崇、井上直哉、岩谷良則：難治性バセドウ病における Th17 細胞の増加と重症橋本病における Th1/Th2 比の増加、第 36 回日本臨床免疫学会総会(東京)、2008.10.18
58. 喜多美文、出口松夫、鍵田正智、吉岡範、田原和子、中野卓、森恵子、浅利誠志、日高洋、渡邊幹夫、岩谷良則、山中喜代治：化学発光酵素免疫測定法 HISCL による HCV 抗体の測定、第 40 回日本臨床検査自動化学会大会(横浜)、2008.10.10
59. 渡邊幹夫、南波崇、赤水尚史、岩谷良則：IL-4 遺伝子多型における-590CC 遺伝子型は橋本病重症化の予測因子である、第 48 回日本臨床化学学会年会(浜松)、2008.8.31
60. 渡邊幹夫：より高度な遺伝子検査学実習を目指して—遺伝子データベース解析やプライマー設計など、研究的内容にも踏み込んで—、第 3 回日本臨床検査学教育学会学術大会イブニングセミナー「ワンポイントアドバイスコーナー」(博多)、2008.8.21

61. 渡邊幹夫、南波崇、赤水尚史、岩谷良則:IL-4 -590C/T 多型は橋本病における甲状腺破壊の重症度の予測因子である、第 15 回日本遺伝子診療学会大会(仙台)、2008.8.1
62. 渡邊幹夫、山田宏哉、南波崇、赤水尚史、岩谷良則:TGF- β 1 遺伝子の+869C/T 多型と橋本病の重症度・バセドウ病の難治度の関連、第 15 回日本遺伝子診療学会大会(仙台)、2008.8.1
63. 中口あづさ、上田大史、渡邊幹夫、岩谷良則:自己免疫性甲状腺疾患の難治度および重症度と IL-12/IL-12R 遺伝子多型との関連、第 18 回日本臨床化学会近畿支部総会(京都)、2008.2.23
64. 山下有加、渡邊幹夫、岩谷良則、松塚文夫、宮内昭:自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺組織内細胞における GTR/GITRL 発現部位の検討、第 47 回近畿医学検査学会・第 50 回日本臨床検査医学会近畿支部総会・第 27 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究 発表会合同学会(大阪)、2007.11.25
65. 山田宏哉、渡邊幹夫、岩谷良則、高野徹:細胞を対象とした臨床検査として使用可能な *in situ hybridization* のプロトコルの検討、第 47 回近畿医学検査学会・第 50 回日本臨床検査医学会近畿支部総会・第 27 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会合同学会(大阪)、2007.11.25
66. 南波崇、渡邊幹夫、赤水尚史、岩谷良則:インターロイキン4およびその受容体の遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の 病態との関連、第 47 回近畿医学検査学会・第 50 回日本臨床検査医学会近畿支部総会・第 27 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会合同学会(大阪)、2007.11.25
67. 渡邊幹夫、岩谷良則:自己免疫疾患の予後診断、シンポジウム「予防医学のための臨床検査」、第 47 回近畿医学検査学会・第 50 回日本臨床検査医学会近畿支部総会・第 27 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会合同学会(大阪)、2007.11.25
68. 須崎有起子、巽圭太、日高洋、花田浩之、竹岡啓子、林貞夫、渡邊幹夫、岩谷良則:患者データの中央を用いた精度管理法についての検討、第 47 回近畿医学検査学会・第 50 回日本臨床検査医学会近畿支部総会・第 27 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会合同学会(大阪)、2007.11.25
69. 黒本光一、羽根智美、中西千恵子、浜野理一郎、渡邊幹夫、岩谷良則:妊娠高血圧症候群(PIH)の発症を早期予知するための検診時血圧と随時尿分析の評価、第 47 回近畿医学検査学会・第 50 回日本臨床検査医学会近畿支部総会・第 27 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会合同学会(大阪)、2007.11.25
70. 渡邊幹夫、清水石裕、林文明、山田宏哉、南波崇、赤水尚史、岩谷良則:自己免疫性甲状腺疾患の重症度と CD40 遺伝子の-1C/T 多型頻度との関連、第 54 回日本臨床検査医学会学術集会(大阪)、2007.11.24
71. 山田宏哉、渡邊幹夫、南波崇、赤水尚史、岩谷良則:TGF- β 遺伝子多型を用いた自己免疫性甲状腺疾患の重症度予後予測法の開発、第 54 回日本臨床検査医学会学術集会(大阪)、2007.11.24

72. 南波崇、渡邊幹夫、赤水尚史、岩谷良則：インターロイキン4およびその受容体の遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 50 回日本甲状腺学会学術集会(神戸)、2007.11.17
73. 山下有加、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺組織内細胞における GITR/GITRL 発現の検討、第 50 回日本甲状腺学会学術集会(神戸)、2007.11.17
74. 山田宏哉、渡邊幹夫、南波崇、赤水尚史、岩谷良則：TGF- β 遺伝子多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態との関連、第 50 回日本甲状腺学会学術集会(神戸)、2007.11.17
75. 渡邊幹夫、岡本典子、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺濾胞細胞における CD80/86 分子の発現、第 35 回日本臨床免疫学会総会(大阪)、2007.10.20
76. 南波崇、渡邊幹夫、和田恵、赤水尚史、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の重症度とインターロイキン 10 遺伝子-592A/C 多型との関連、大阪、第 35 回日本臨床免疫学会総会(大阪)、2007.10.20
77. 吉岡範、出口松夫、鍵田正智、喜多美文、中野卓、田原和子、森恵子、渡邊幹夫、岩谷良則、浅利誠志、日高洋：定性試薬におけるカットオフ値を基準とする定量化の試み、第 39 回日本臨床検査自動化学会大会(横浜)、2007.9
78. 吉岡範、出口松夫、鍵田正智、喜多美文、中野卓、田原和子、森恵子、渡邊幹夫、岩谷良則、浅利誠志、日高洋：6種 TP 抗体測定法の比較、第 39 回日本臨床検査自動化学会大会(横浜)、2007.9
79. 喜多美文、出口松夫、鍵田正智、吉岡範、浅利誠志、渡邊幹夫、岩谷良則、山中喜代治：HIV 抗原抗体同時測定試薬「アーキテクト HIV Ag/Ab コンボアッセイ」の評価、第 39 回日本臨床検査自動化学会大会(横浜)、2007.9
80. 岩崎寛、山本聡、石井万有子、渡邊幹夫：都市公園内の芝生地およびラベンダー畑が保有する生理・心理的効果に関する研究、第 38 回日本緑化工学会大会(京都)、2007.9.8
81. 渡邊幹夫、堀尾勝、石神真人、濱田吉之輔、河口直正、平田雅之、柴田理志、山村卓、岩谷良則：大阪大学の臨床検査技師教育における情報系教育の系統化、第2回日本臨床検査学教育学会学術大会(高松)、2007.8.28
82. 渡邊幹夫、伊藤千聡、奥田典子、渡部親美、岩谷良則：インターフェロン γ +874A/T 多型と橋本病の高度な組織破壊の関連、第 14 回日本遺伝子診療学会大会(松山)、2007.7.27
83. 南波崇、伊藤千聡、渡邊幹夫、奥田典子、渡部親美、岩谷良則：橋本病の重症度とインターフェロン γ +874 多型との関連、第 17 回日本臨床化学会近畿支部総会(大阪)、2006.12.9
84. 渡邊幹夫、中野愛子、飯田貴雄、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患における甲状腺浸潤調節性 T 細胞のアポトーシスによる減少、第 53 回日本臨床検査医学会学術集会(弘前)、2006.11.10
85. 岡本典子、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺濾胞細胞における副刺激分子の発現解析、第 53 回日本臨床検査医学会学術集会(弘前)、2006.11.10

86. 渡邊幹夫、中野愛子、飯田貴雄、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患における甲状腺内浸潤調節性 T 細胞の減少、第 49 回日本甲状腺学会(高松)、2006.11.3
87. 岡本典子、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺濾胞細胞における CD80/86 分子の発現解析、第 49 回日本甲状腺学会(高松)、2006.11.3
88. 清水石裕、黒田将子、山藤智子、渡邊幹夫、岩谷良則：妊娠・出産における血清チオレドキシン濃度の生理的変動、第 49 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(福井)、2006.10.21
89. 上田大史、山藤智子、渡邊幹夫、黒田将子、岩谷良則：血清 IgG3/IgG 比率と甲状腺腫大度を併用したバセドウ病難治性の予後予測法の開発、第 46 回近畿医学検査学会(福井)、2006.10.21
90. 渡邊幹夫、中野愛子、飯田貴雄、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患における甲状腺浸潤調節性 T 細胞の減少、第 34 回日本臨床免疫学会総会(東京)、2006.10.2
91. 岩崎寛、山本聡、権孝?、渡邊幹夫：屋内空間における植物のストレス緩和効果に関する実験、第 37 回日本緑化工学会大会(東京)、2006.9.16
92. 和田恵、湯村暁、奥田典子、渡邊幹夫、岩谷良則：IL-2 遺伝子多型による自己免疫性甲状腺疾患の重症度の予後予測に関する研究、第 46 回日本臨床化学学会年会(東京)、2006.9.8
93. 渡邊幹夫：造園分野における人の健康と緑の効果に関する取り組み(コメンテーター)、平成 18 年度日本造園学会分科会(大阪)、2006.5.22
94. 笠原泉、菅野恵、平川要、岡本典子、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺組織における Fas 及び Fas ligand の発現解析、第 6 回日本内分泌学会近畿支部学術集会(神戸)、2005.10.8
95. 笠原泉、菅野恵、平川要、岡本典子、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺組織における Fas ligand の発現解析、第 45 回近畿医学検査学会(大津)、2005.10.15
96. 伊藤千聡、渡邊幹夫、奥田典子、渡部親美、岩谷良則：INF- γ 遺伝子多型と橋本病の重症度との関連、第 48 回日本甲状腺学会学術集会(東京)、2005.11.22
97. 渡邊幹夫、山藤智子、上田大史、黒田将子、岩谷良則：血清 IgG3/IgG 比率と甲状腺腫大度を用いたバセドウ病難治例の鑑別診断法、第 48 回日本甲状腺学会学術集会(東京)、2005.11.23
98. 中野愛子、飯田貴雄、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の末梢血における調節性 T 細胞比率の解析、第 52 回日本臨床検査医学会総会(福岡)、2005.11.17
99. 伊藤千聡、渡邊幹夫、奥田典子、渡部親美、岩谷良則：INF- γ 遺伝子多型による橋本病の重症度の予後予測に関する研究、第 52 回日本臨床検査医学会総会(福岡)、2005.11.17
100. 渡邊幹夫、山藤智子、上田大史、黒田将子、岩谷良則：血清 IgG3/IgG 比率と甲状腺腫大度によるバセドウ病難治例の鑑別診断、第 52 回日本臨床検査医学会総会(福岡)、2005.11.17

101. 渡邊幹夫、伊藤千聡、奥田典子、渡部親美、岩谷良則:INF- γ 遺伝子の+874A/T 多型と橋本病の重症度との関連、第 33 回日本臨床免疫学会総会(京都)、2005.10.28
102. 黒田将子、山藤智子、上田大史、渡邊幹夫、岩谷良則:血清 IgG3/IgG 比率と甲状腺腫大度によるバセドウ病の難治性予測、第 33 回日本臨床免疫学会総会(京都)、2005.10.28
103. 山藤智子、上田大史、渡邊幹夫、岩谷良則:バセドウ病難治症例における血清 IgG3/IgG 比率の増加、第 15 回日本臨床化学学会近畿支部総会(京都)、2004.12.18
104. 渡邊幹夫、中村幸代、松塚文夫、丸岡隼人、宮内昭、岩谷良則:自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺浸潤単核球サブセットにおける Fas 及び Fas リガンド(FasL)発現の解析、第 47 回日本甲状腺学会(前橋)、2004.11.11
105. 竹岡啓子、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則:バセドウ病患者の血清 IL-10 濃度と疾患難治性との関連、第 47 回日本甲状腺学会(前橋)、2004.11.12
106. 山藤智子、渡邊幹夫、岩谷良則:難治性バセドウ病における血清 IgG3/IgG 比率の増加、第 32 回日本臨床免疫学会総会(東京)、2004.10.8
107. 渡邊幹夫、中村幸代、松塚文夫、丸岡隼人、宮内昭、岩谷良則:自己免疫性甲状腺疾患の甲状腺浸潤単核球における Fas 及び Fas リガンド(FasL)発現の解析、第 32 回日本臨床免疫学会総会(東京)、2004.10.8
108. 渡邊幹夫、中村幸代、松塚文夫、丸岡隼人、宮内昭、岩谷良則:自己免疫性甲状腺疾患における Fas 及び Fas リガンド(FasL)陽性甲状腺浸潤単核球サブセットの解析、第 51 回日本臨床検査医学会総会(東京)、2004.9.4
109. 竹岡啓子、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則:難治性バセドウ病における血清 IL-10 の増加、第 51 回日本臨床検査医学会総会(東京)、2004.9.4
110. 河上智香、藤原千恵子、渡邊幹夫、石井京子、多河典子、小林吉晴:大学教員の看護実習におけるストレスに対するコルチゾールを用いた評価、日本健康心理学会第 17 回大会(東京)、2004.9.1
111. 伊藤千聡、渡邊幹夫、山本尚子、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則:バセドウ病の重症度と末梢血 CD25⁺細胞比率の関連、第 47 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(奈良)、2004.6.12
112. 渡邊幹夫、山本尚子、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則:バセドウ病・橋本病の病態と血清可溶性 CD25 抗原濃度の関連 第 46 回日本甲状腺学会総会(名古屋) 2003.11
113. 渡邊幹夫、中村幸代、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則:バセドウ病の甲状腺浸潤リンパ球における NKT 細胞の解析 第 46 回日本甲状腺学会総会(名古屋) 2003.11
114. 渡邊幹夫、山本尚子、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則:自己免疫性甲状腺疾患の病態と血清可溶性 CD25 抗原濃度との関連 第 50 回日本臨床検査医学会総会(広島) 2003.10
115. 渡邊幹夫、山本尚子、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則:バセドウ病・橋本病の病態と血清可溶性 CD25 濃度との関連 第 31 回日本臨床免疫学会総会(東京) 2003.10
116. 岩崎寛、山本聡、渡邊幹夫:樹木の香りとリラックス効果 ―クスノキの香りはストレスを緩和するか― 日本アロマケア学会 2003 年度学術総会(東京) 2003.7

117. 黒田将子、渡邊幹夫、山本尚子、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: 自己免疫性甲状腺疾患における末梢血 T リンパ球上の CD28 および CD152 分子の臨床的意義 第 46 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(和歌山) 2003.6
118. 中村幸代、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: バセドウ病の甲状腺浸潤リンパ球における NKT 細胞および調節性 T 細胞の解析 第 13 回日本臨床化学会近畿支部総会(神戸) 2003.2
119. 渡邊幹夫: 自己免疫疾患の予後診断法 シンポジウム「臨床検査学研究の独自性の確立に向けて」 第 46 回日本臨床検査医学会近畿支部例会(大阪) 2002.12
120. 渡邊幹夫、山本尚子、丸岡隼人、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: CD195 及び CD30 発現とバセドウ病・橋本病の重症度との関連 第 30 回日本臨床免疫学会総会ワークショップ(日本免疫学会共催)(東京) 2002.12
121. 依藤史郎、岩谷良則、松浦成昭、杉山治夫、川野淳、彼末一之、稲垣忍、堀尾勝、東照正、今岡弘之、渡邊幹夫、山崎知行、尾路祐介、河野典夫、折田義正: 臨床医学特別実習と生命工学 フォーラム「検査技師教育の新理念ー21 世紀の臨床検査技師に求められるものー」 第 49 回日本臨床検査医学会総会(大阪) 2002.11
122. 中本由美、仁木誠、渡邊幹夫、岩谷良則: バセドウ病の難治例における末梢血 IgG3 産生細胞数の増加 第 49 回日本臨床検査医学会総会(大阪) 2002.11
123. 中村幸代、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: バセドウ病の甲状腺浸潤リンパ球における CD8⁺CD25⁺細胞の増加 第 49 回日本臨床検査医学会総会(大阪) 2002.11
124. 渡邊幹夫、山本尚子、丸岡隼人、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: バセドウ病及び橋本病における末梢血 CD195 及び CD30 発現と疾患重症度の関連 第 49 回日本臨床検査医学会総会(大阪) 2002.11
125. 中本由美、仁木誠、渡邊幹夫、岩谷良則: バセドウ病の難治例における末梢血 IgG3 産生細胞数の増加 第 45 回日本甲状腺学会総会(浜松) 2002.11
126. 中村幸代、渡邊幹夫、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: バセドウ病の甲状腺浸潤リンパ球における調節系および活性化 T 細胞サブセットの解析 第 45 回日本甲状腺学会総会(浜松) 2002.11
127. 渡邊幹夫、山本尚子、丸岡隼人、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: 自己免疫性甲状腺疾患の重症度と CD195 及び CD30 抗原との関連 第 45 回日本甲状腺学会総会(浜松) 2002.11
128. 中本由美、渡邊幹夫、香川朋也、光田信明、細坪秀夫、岩谷良則: 妊娠に伴う末梢血リンパ球サブセットの比重の低下 第 45 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(京都) 2002.6
129. 渡邊幹夫、山本尚子、丸岡隼人、玉井一、松塚文夫、宮内昭、岩谷良則: 橋本病の甲状腺組織破壊における CD8⁺CD25⁺T 細胞と甲状腺自己抗体の関与 第 29 回日本臨床免疫学会総会ワークショップ(第 31 回日本免疫学会総会・学術集会共催)(大阪) 2001.12
130. 渡邊幹夫、山本尚子、丸岡隼人、玉井一、松塚文夫、隈寛二、宮内昭、岩谷良則: 橋本病の重症例における末梢血 CD8⁺CD25⁺T 細胞の増加 第 44 回日本甲状腺学会総会(那覇) 2001.11

131. 山本尚子、渡邊幹夫、松塚文夫、玉井一、隈寛二、岩谷良則：橋本病の重症例における末梢血可溶性 CD8 濃度の低下 第 48 回日本臨床検査医学会総会・第 41 回日本臨床化学会年会 連合大会—検査 2001—(横浜) 2001.8
132. 渡邊幹夫、山本尚子、丸岡隼人、玉井一、松塚文夫、隈寛二、岩谷良則：甲状腺組織破壊が高度な橋本病における末梢血 CD25⁺T 細胞の増加 第 48 回日本臨床検査医学会総会・第 41 回日本臨床化学会年会 連合大会—検査 2001—(横浜) 2001.8
133. 信田梨江、中村幸代、渡邊幹夫、山本尚子、上田安希子、岩谷良則：性周期に伴う末梢血 Fas 陽性リンパ球サブセットの変動 第 44 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(大津) 2001.6
134. 山本尚子、渡邊幹夫、玉井一、松塚文夫、隈寛二、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患における末梢血 CD154 陽性 T 細胞サブセットの解析 第 44 回日本臨床検査医学会近畿支部総会(大津) 2001.6
135. 丸岡隼人、渡邊幹夫、滝本忠司、隈寛二、岩谷良則：自己免疫疾患の重症度における末梢血 T 細胞 Fas 発現強度の増加 第 11 回日本臨床化学会近畿支部総会(神戸) 2001.1
136. 西由起子、渡邊幹夫、丸岡隼人、岩谷良則：末梢血 Fas 陽性リンパ球サブセットの日内変動 第 47 回日本臨床検査医学会総会(郡山) 2000.11
137. 香川朋也、渡邊幹夫、谷口武、光田信明、岩谷良則：正常妊娠における末梢血 sCD4/sCD8 産生細胞数の解析 第 47 回日本臨床検査医学会総会(郡山) 2000.11
138. 山本尚子、渡邊幹夫、松塚文夫、玉井一、隈寛二、滝本忠司、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患の重症度とリンパ球発現 CD30 抗体との関連 第 47 回日本臨床検査医学会総会(郡山) 2000.11
139. 渡邊幹夫、西由起子、丸岡隼人、香川朋也、岩谷良則：末梢血 T リンパ球サブセットにおける Fas 陽性細胞比率の日内変動 第 28 回日本臨床免疫学会総会(東京) 2000.9
140. 渡邊幹夫、丸岡隼人、岩谷良則：自己免疫疾患の難治性とリンパ球 Fas 発現密度の関連 第 29 回日本免疫学会総会・学術集会(京都) 1999.12
141. 丸岡隼人、渡邊幹夫、滝本忠司、岩谷良則：自己免疫疾患の重症度とリンパ球 Fas 発現強度の相関 第 46 回日本臨床病理学会総会(熊本) 1999.11
142. 渡邊幹夫、丸岡隼人、滝本忠司、香川朋也、岩谷良則：自己免疫疾患の難治例におけるリンパ球 Fas 発現強度の増加 第 42 回日本甲状腺学会総会(名古屋) 1999.11
143. 丸岡隼人、渡邊幹夫、岩谷良則：自己免疫性甲状腺疾患における末梢血 T 細胞の Fas 発現強度 第 27 回日本臨床免疫学会総会(宇都宮) 1999.10
144. 渡邊幹夫：妊娠・出産—母体の劇的な免疫変動—ODINS！ 第 19 回大阪大学医学部保健学科フォーラム(大阪) 1998.11
145. 渡邊幹夫：Mailing List 利用の情報交換による動物実験の Refinement シンポジウム「インターネットの利用による動物実験の 3Rs」 第 11 回動物実験代替法学会(東京) 1997.11
146. 渡邊幹夫、網野信行、岩谷良則：バセドウ病および橋本病の甲状腺中毒症例における血清 soluble CD8 値の解離 第 25 回日本臨床免疫学会総会(東京) 1997.9

研究費

競争的研究資金獲得状況の一覧です

岩谷 良則

- 文部科学省 概算要求 特別経費(プロジェクト分)平成 23 年度～26 年度(申請書作成者)
高齢双生児レジストリーに基づく双生児研究基盤の構築 ～心豊かで健やかな超長寿社会を目指して～
- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)平成 23 年度～25 年度(研究代表者)
免疫応答制御因子の遺伝子多型に基づく自己免疫疾患の発症予知診断法の開発
- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)平成 20 年度～22 年度(研究代表者)
末梢性自己寛容誘導機序の解明に基づく自己免疫疾患の発症予知診断法の開発
- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)平成 17 年度～18 年度(研究代表者)
免疫調節因子の遺伝子多型による自己免疫疾患の予後診断法の開発
- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)平成 14 年度～15 年度(研究代表者)
自己免疫疾患の病態規定因子解明と予後診断法の開発
- 科学技術振興事業団 独創的研究成果育成事業 平成 11 年度(サラヤ株式会社との共同研究)
自己免疫疾患の予後診断法の開発
- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)平成 10 年度～12 年度(研究代表者)
実用的かつ多目的な好感度免疫機能測定装置の開発に関する研究
- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)平成 8 年度～9 年度(研究代表者)
臓器特異的自己免疫疾患の標的臓器における末梢性自己寛容誘導機序の異常に関する研究
- 奨学寄附金(岩谷教授研究助成金):
平成 12 年 サラヤ、平成 10-11 年 日本イーライリリー、平成 9 年 塩野義製薬、第一製薬

渡邊 幹夫

- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)平成 24 年度～26 年度(研究代表者)
双生児の検査成績に基づく臨床検査値への環境因子寄与率の解明
- 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)平成 21 年度～23 年度(研究代表者)
一卵性双生児を対象とし後天的遺伝要因に着目した自己免疫疾患予後予測検査法の開発
- 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究(B)平成 16 年度～17 年度(研究代表者)
甲状腺疾患をモデルとした自己免疫疾患予後予測検査法の開発

社会貢献

学会や公的団体・会議等における活動歴を教官ごとにリストアップしています

岩谷 良則

日本学術振興会 学術システム研究センター 研究員 (2012～)
文部科学省 大学設置・学校法人審議会 (大学設置分科会) 専門委員 (2009-2011)
日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員 (2007-2010)
放送大学学園客員教授 (2007-2009)
経済産業省 医療経営人材育成事業実施委員会委員 (2005～2006)
日本臨床化学会 評議員 (2007～)、近畿支部長 (2008-2009)、理事 (2011～)
日本臨床検査学教育学会 編集委員会委員長 (2008～2010)
日本臨床検査医学会 (旧 日本臨床病理学会) 評議員 (1990～)
日本臨床検査医学会 (旧 日本臨床病理学会) 近畿支部 評議員 (1987～)、幹事 (2007～)
日本内分泌学会 評議員 (1989～)
日本甲状腺学会 評議員 (1988～2011)、理事 (2012～)
日本臨床免疫学会 評議員 (1991～)
The Endocrine Society (USA) 会員 (1987～)
The American Thyroid Association 会員 (1987～)
大阪府医師会 臨床検査精度管理委員会 委員 (2012～)
大阪府臨床検査技師会 国際貢献委員会 委員 (2006～2009)
日本臨床検査学教育協議会 理事 (2006～)
日本臨床検査同学院 理事 (2005～2011)
全国臨床検査技師教育施設協議会 常任幹事 (2005)
日本食品安全協会 (旧 健康食品管理士認定協会) 理事 (2004～)
医療関連サービスマーク制度衛生検査所業務調査指導員 (2004～)
近畿チーム医療研究会実行委員 (2004～2010)

渡邊 幹夫

日本臨床検査医学会 (旧 日本臨床病理学会) 評議員 (2008～)
日本臨床化学会近畿支部 評議員 (2006～)
日本臨床検査学教育学会 評議員 (2011～)
日本甲状腺学会 評議員 (2006～)
The American Thyroid Association 会員 (2008～)
The American Association for Clinical Chemistry 会員 (2011～)
公益社団法人 医学振興銀杏会 理事 (会計・公益認定担当) (2001～)

現在の研究室設備等一覧

研究室設置設備の一覧です。開設当時とはずいぶん変わりました。

- ✓ サーマルサイクラー 5 台(内、Gradient 機能付き 3 台)
- ✓ リアルタイム PCR システム ABI StepOnePlus
- ✓ フローサイトメーター FACSCalibur3A(シングルレーザー・3カラータイプ)
- ✓ フローサイトメーター BD Accuri C6(デュアルレーザー・4 カラータイプ)
- ✓ パイロシークエンサー QIAGEN PyroMark Q24
- ✓ 自動磁気分離システム AutoMACS(施設内共有機器として設置)
- ✓ 核酸濃度測定用微量吸光度計
- ✓ CO2 インキュベーター
- ✓ クリーンベンチ
- ✓ ゲル自動染色装置
- ✓ ゲル定温電気泳動装置
- ✓ 電気泳動装置 各種計4台～ およびパワーサプライ
- ✓ トランスイルミネーターおよびデジタル撮影装置
- ✓ プレートリーダー(96穴プレート吸光度測定装置)
- ✓ 自動プレート洗浄装置
- ✓ ヒートブロック
- ✓ 冷却微量遠心機
- ✓ 遠心分離機
- ✓ 電子天秤
- ✓ 実体顕微鏡
- ✓ ウォーターバス(恒温槽)
- ✓ フリーザー8台(ディープフリーザー含む)、ほか試薬等保管用冷蔵庫
- ✓ パーソナルコンピュータ (概ね、大学院生一人に一台貸与)
- ✓ 研究室内ネットワーク共有 RAID-HDD(記憶容量2TB(テラバイト))